

こんしゅう
今週のことば「ささげもの」

せいし
《聖書》マルコによる福音書 12:41-44

げんざいきょうかい かみ
現在教会においては、神へのささげもの
のとして、大地の恵みと労働の実りのか
わりに、献金と維持費を納めています。

いじひせいど けんきんがく
維持費制度では、どうしても、献金の額

しんこう どあ
によって信仰の度合いをはかってしまう

きけん きょうかい いじ
危険がつかまといえます。教会を維持して

いくためには金がかかりますから、どう

してもたくさん金を出す人が教会の中

大事にされがちです。しかし、これでは

政治家と同じような体質を教会が持つて

いることとなります。多く金を出した人

にそれだけの見返りをすることは、政治

家のとる態度です。

いったい神へのささげものは、どのよ

うなものがいいのでしょうか。

やもめの姿が、私たちに答えを与えて

います。彼女は生活費の全部を神へのさ

さげものにしましたのです。私たちにこれだ

けの勇気があるでしょうか。しかし、こ

うしないと、いくら余っているものだけ

をささげていても、立派なささげものと

い
言えないのです。

たと こま ひと たす
例えば、困っている人を助けてあげよ

うとするなら、困っている原因を取り除

くために努力しないとけません。ただ、

困っている人に物をあげても、その人の

ためになりません。むしろ、こうした現

状を維持することになります。なぜ貧困

があるのか。なぜ難民がいるのか。原因

はどこにあるのか。原因を取り除くため

に何をする必要があるのか。こうした点

を一つ一つ解決していかない限り、困っ

ているから助けてあげましょうというの

では、かえって解決をおくらせる結果に

なります。

かみ ひと じぶん せいかつ
神へのささげものは、人が自分の生活

をかけて、人のために力をつくす時に完

全なものになります。自分の身の安全を

確保して、余ったものをささげるだけで

はたりないのです。こうした生活をかけ

たささげものがふえれば、社会全体が人

間の住める世界に変わっていきけるでし

う。

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第32主日B年（滝野）